



ノア通信

No.19 2017年11月5日発行

空き巣等の犯人確保！

前号のノア通信で「憩いの家ノア」に空き巣が入ったうえ、利用者が詐欺にあったり、私たち家族を殺すなどの脅迫があったことを報告しました。家に火をつけるとの脅迫もあったため、その後ノアを閉鎖し、我が家で暮らすとともに、警察にパトロールをお願いしたり、防犯カメラを設置してもらったりと、気の休まらない日々が続きました。犯人が捕まらない限り、安心できなかったのですが、10月27日の夜、寄居警察から犯人確保の連絡があり、一安心できる状況になりました。皆様には大変ご心配をお掛けしましたので、取り急ぎご報告します。

今後はローン会社との債務についての交渉、成年後見人の申し立てなど、色々厄介な問題がありますが、何とかうまく進行して欲しいものです。

最近では知的障害者や高齢者を狙った詐欺被害が増大していると聞きます。いつ身近な方が被害にあうかもしれない不安な時代です。

今回の事件を個人的な災難とするのではなく、社会の問題とするとともに、その対処の方法を考えるためにも、その後の経緯を皆様にお伝えすることが大切だと考えます。問題がある程度解決した段階で本誌にて知らせします。

憩いの家ノア利用者募集のお願い

「憩いの家ノア」が火を付けられるかもしれないことを家主さんに伝えたところ、家主さんは「万が一そのようなことがあっても大丈夫だから、続けるように」とおっしゃって下さ

いました。大変有難く感謝の気持ちで一杯になると同時に、苦しくともやり抜かねばとの決意を新たにしました。しかし、現在利用料月額 6 万円で 2 名の方が入居しているのですが、これだけでは家賃、光熱水費、食材費、消耗品費だけでもギリギリの状態、とても世話人さんを雇用できる状況ではありません。雇用というほどの金額は払えないにしろ、謝金程度はお支払いできる経営状態にしない限り、世話人さんの募集はできません。このため、来年からは利用料を月額 7 万円に上げ、2 名の利用者増を目標にします。入居者が 4 名になれば、補助金なしで運営できるのではないかと考えるためです。

利用料の値上げは心苦しいのですが、障害者総合支援法により認定されたグループホームの利用料の相場は 7 万円程度ですので、高くはないと思います。ただし、認定施設の場合には月額 1 万円の家賃補助金が出ますが、ノアはそのような補助はありません。その一方、認定施設は療育手帳を持っていないと、利用できないのですが、ノアはそのような制約はありません。ただし、食事、排せつなど日常的な行動が自分でできる方に限ります。

利用条件などは以下のとおりですが、詳細は当会事務局までお気軽にお尋ねください。

ノアの所在地：寄居町桜沢 490-7（寄居駅徒歩 10 分、玉淀駅徒歩 3 分、スーパー、病院などが近くにありますが）

利用料：月額 7 万円（家賃、光熱水費、食事代（3 食）、消耗品代、管理費）

日額：2500 円（朝夕食事代を含む）

募集人員：2 名（男子のみ）

部屋の状況等：各室 6 畳、エアコン、テレビあり

トイレ（水洗洋式）2 か所、食堂、ふろ場、談話室

門限：午後 10 時

世話人：1 名常駐

アキアカネ復活に向けた調査計画案

アキアカネ復活に向けた試みについて、むさしの里山研究会の後を引き継いで本年も行っていましたが、来年の調査で一区切りつけることにします。つきましては、これまでの成果を踏まえ、以下のような調査を行う予定です。アキアカネは極めて多様性に富む昆虫で、様々な地域での比較が必要ですし、地域にあった保全策を講ずる必要があると思います。まだ大ざっぱな計画案しかできていませんが、来年 3 月までにはより具体的な調査方法を提示します。その折には、ぜひ皆様のご協力をお願いします。

調査の目的

アキアカネが水田で生息するためには以下の四つの条件が全て満たされることが必要と

考えられる。

1. 秋に産卵場所となる水たまりが存在すること
2. ヤゴの成長を完了するのに十分なエサ生物が存在すること
3. 孵化やヤゴに甚大な影響を及ぼす農薬等有害物質が存在しないこと
4. ヤゴの生育中に干上がらないこと（中干を行わない）

上記のうち

1. は秋の長雨や台風、最近頻繁に起こる集中豪雨などにより問題はないであろう。
2. は 2018 年度のメインテーマになる。とくに、ある程度成長したヤゴは飢餓に強いが、孵化直後のものは弱いので、孵化間もないヤゴのエサを飼育と野外水田において明らかにしたい。
3. はネオニコチノイド系育苗箱施用農薬が、アキアカネ激減の主因とする説が主流になっているが、検証が必要である。とりわけ、イミダクロプリドを成分とする薬剤（ルーチンアドスピノ）のミジンコ類やアキアカネ幼虫への影響の有無を調査する必要がある。
4. は主要な激減要因とは考えにくいですが、羽化前の中干の影響について検証するため、ヤゴの乾燥耐性について調べる必要がある。

一方、上記の 1～4 の全てを満たすと考えられる冬季湛水無農薬水田でもアキアカネが全く発生しないケースがある。

これらのことを勘案し、2018 年度は以下の調査を行い、アキアカネ復活に向けた試案を提示する。

調査方法

1. アキアカネの孵化時期（4月下旬～5月中旬）に、湛水後の水田の微生物の種類と生息密度を調査し、合わせてその水田でのアキアカネ幼虫の生息状況を調査する（2017年秋に調査予定水田でのアキアカネの産卵を確認しておく）。
2. 飼育実験によりアキアカネの孵化幼虫に好適なエサ動物を明らかにする（水田に発生する代表的なミジンコ類数種を与え、成長状況を比較する）。
3. 1箱あたり 50g のルーチンアドスピノを育苗箱に施用し、その土壌、及び根を洗った苗を入れた容器で、ミジンコ及びアキアカネ卵、幼虫を飼育し、死亡率を対象区と比較する。
4. ルーチンアドスピノを使用していながら、アキアカネが大量発生する長野県伊那地方の複数の水田での現地調査と、農家からの聞き取り調査を行う。

調査期間

平成30年4月～10月

取りまとめ期間

平成30年10月～12月

報告書の内容（平成31年2月発行）

- ・アキアカネの生活史と生態と激減要因に関する知見総説
- ・箱施用殺虫剤を使用した水田でのアキアカネと共存する耕作方法の提案
- ・無農薬水田でのアキアカネと共存する耕作方法の提案
- ・簡易なアキアカネ生息場所づくりの提案

2025年問題に思う

今から8年後、すなわち東京オリンピックが終わった5年後の2025年に生じる問題があります。2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を迎える。これがその『2025年問題』です。

団塊の世代とは昭和22年から24年に生まれた世代を指すことが多いようで、23年生まれの私が当てはまります。いわば社会のお荷物世代で、75歳までに死んだ方が世のためになるように思います。とはいえ、そう簡単に死ねるわけでもなく、健康なら少しでも長生きしたいと思うのが人情でしょう。正直なところ、私はいつ死んでも良いと思う反面、今死んだら家族をはじめ多くの方に迷惑をかけるので、死ぬわけにもいかないというジレンマに陥っています。とりあえずは、75歳まで生きると想定して、これからやるべきことを一つずつ片付けていかなければならないと思っています。そう考えると、残された時間はわずか6年しかありません。まずアキアカネ復活に向けた提案書を発行する。ついで、「憩いの家ノア」の世話人を見つけるとともに、運営資金調達の道筋をつける。その後、ノアの将来的なビジョンを再構築し、法人代表者をバトンタッチする。以上が今後6年以内に果たすべき内容です。それまでは、何とか健康が守られるよう願うのみです。皆様はどのように、人生を締めくくろうと思っていらっしゃるのでしょうか？何事も始めるより、終わる方が難しいですね。

ウスバキトンボ終見日速報

初見日と違い終見日を特定することは厄介ですが、もし調べられているようでしたら、情報提供をよろしくお願ひします。沖縄、九州、関東、東北でどの程度差が

あるのか明らかにしたいと願っています。なお、屋外で飼育しているウスバキトンボはこのところの寒さのために羽化近い個体は全滅してしまいましたが、終齢の一つ前の個体が1頭おり、それは11月4日現在健在です。寄居町の最低気温は、10月31日が4.1℃、11月1日が3.7℃です。水温がどの程度下がったのかは測定していないので不明ですが、かなり低温に耐えるように思われます。

2017年の各地のウスバキ終見日(11月3日現在)

観察場所	終見日	報告者	備考
大阪府八尾市山本高安町	10月5日	木村一昭	
長野県上田市	10月8日	喜多英人	
大分県臼杵祇園東	10月10日	阿南宏重	
青森県下北郡東通村	10月17日	奈良岡弘治	1頭目撃
埼玉県大里郡美里町	10月27日	新井 裕	湿地で静止中の1メス写真撮影
千葉県千葉市稲毛区	11月2日	松木和雄	稲毛海浜公園で1頭目撃

イノシシに荒らされるビオトープ池

寄居町の林に囲まれた水田ではイノシシの被害が多く、電気柵がないと栽培が困難な場所が年々増加しています。ビオトープ池も数年前からイノシシが出没するようになったのですが、今年はかなりひどい状態です。年に数回草刈りを行っているのですが、イノシシにより地表面が凸凹になってしまい、草刈り機での草刈りがしづらくなっています。とりわけ今秋は一面が踏み荒らされていて、草も生えず土がむき出しの状態になっています。このような状態が1年中続けば、草刈りがいらなくなって好都合なのですが、どうなりますか？

今年は10月がかつてないような大雨のため、普段は水のない場所まで水浸しです。このまま、水が溜まった状態が続くと、思いがけない水生生物が発生するかもしれません。今年は、おびただしい数のヨツボシトンボが羽化したのですが、来年はどうなるでしょうか？以前は大量に羽化したクロスジギンヤンマですが、ここ数年は少数しか羽化しません。

このビオトープ池は2000年の春に造成したので、今年で17年目になり、環境が少しずつ変わり、発生する生き物も年ごとに変わります。ひところはビオトー



プ池づくりが全国的なブームになり、自治体や民団体などにより各地でたくさんのビオトープ池が作られたのですが、その後生き物がどうなったのかという、データを公表している所は少ないようです。当会では、今後もモニタリング調査を続け、その結果をお知らせするつもりです。

ノアサロン（子育てサロン）のご案内

里親に関心を持つ方の交流と情報交換の場です。偶数月の第2火曜日の10時半から行っていますが、12月第2火曜日は里親会の研修会があるようです。このため、1週間倒しにします。どうぞお間違いないようにお願いします。

今回のノアサロンは、里子が成人した先輩や同輩里親さんにお声がけを行い、措置解除後（あるいは養子縁組後）の様子について教えて頂きたいと思います（来てくださるかどうかわかりませんが）。

養護施設退所後の追跡調査はあるのかもしれませんが、養子縁組後や里子措置解除後の追跡調査は行われていないように思います。また、私のように高齢になりつつも、措置解除後20年以上も元里子を抱え込まざるを得ない親も少なくないかもしれません。同じような状況の親同士が、情報を共有し助け合うにはどうすればよいのか？ノアサロンの大きな課題として、今後も取り組んでいくつもりです。

第5回（本年最後）ノアサロン

日時：12月5日（火）10時30分～12時

場所：憩いの家ノア（寄居町桜沢490-7 志村歯科医院の斜め向かいです。迷った場合は090-4842-6618までご連絡ください）

参加費：お茶代200円

事前申し込み：不要

クリスチャンのお茶飲み会日程変更！

近隣のクリスチャンの有志の方がノアで、毎月第二火曜日の午前中にお茶を飲みながら談話する会を行っています。11月の第二火曜日は県民の日になるため、世話人が孫の子守をするため、16日の木曜日に変更するそうです。参加を予定されている方は、お間違いないようにお願いします。時間はいつものとおり、10時30分～12時です。

畑の隣りの荒れ地が堆肥捨て場に！

用土のふれあい農園の隣りは、耕作放棄後何年も経ってブッシュ化していました。以前は藤の盆栽を養成する畑だったようで、藤のツルや根が畑の方に押し寄せて困っていました。ところが、10月の末に突然ユンボでヤブを押しつぶし、あっという間に堆肥をうず高く盛り上げてしまいました。隣りがきれいになったのは有難いのですが、有害物質の捨て場になったのではないかと思い、作業状況を観察するとともに、業者の方に聞き取りを行いました。その結果、樹木の剪定枝葉を裁断したものであることが分かりました。まだ発酵していませんが、数年たてば腐ってよい土になることでしょう。雑草の発生が抑えられそうですので果樹を植えたところや、何も植えていない所にも入れてもらいました。業者の話では、地主は耕作できる状況にはなく、人助けのようなものだと言っていました。一方、近所の農家のおじいさんは、排水がサツマイモ畑に流れ込んできて迷惑だ、と憤慨していました。この農家の方は、他に7町歩の田んぼがあるが、全て貸しており後継者もないとのこと。耕作放棄農地や空き家の激増など、2025年問題は田舎に押し寄せてくることでしょう。当会が借りているふれあい農園もいつまで、維持できるか心もとないものがあります。

なお、今年は秋野菜の生育は上々で、11月18日に予定しているワンダースクール主催の野菜の収穫体験では皆さんに喜んでもらえそうです。参加予定者が50名を越すようですので、駐車場の確保が心配ですが道路わきに寄せてもらえば何とかかなるでしょう。目下畑ではニンニクとタマネギの植え付け作業を急いでいます。タマネギの植え付けもワンダースクール主催でやるつもりだったのですが、参加希望者が少なくキャンセルになってしまいました。参加費をもらったうえ、作業を手伝ってもらおうと目論んだのですが、そうは問屋が卸しませんでした。ニンニクは500球を植え付け、皆さんに買っていただく予定です。品種は寄居町在来種の赤ニンニクと、青森産のホワイト六片です。国産の無農薬のニンニクは貴重ですので、たくさん買ってくださいね。



作業中



作業後

寄付を下さった方

浦辺研一様（さいたま市）

編集後記

寄居町周辺の山々は少し色づいてきました。間もなく紅葉の見ごろを迎えることでしょう。予定より少し早めですがノア通信 19 号をお届けします。空き巣の犯人が捕まったことを早くお伝えするためです。

次号は赤トンボ報告書とともに、12 月末に発行する予定です。アキアカネやウスバキトンボに関する情報をお持ちの方は、11 月末までにお寄せください。

今年も残すところ 2 か月足らずとなりました。日増しに日没が早くなり、せわしない時期になりますね。寒さも厳しさを加え、インフルエンザや風邪も流行る季節です。皆様にはどうぞご自愛ください。

(Y. A)

ノア通信 19 号

NPO 法人ノア 〒369-1205 大里郡寄居町末野 1 2 3 3-2 新井方

TEL&FAX : 048-581-4540 、E-mail tombo2@d1.dion.ne.jp 、携帯 : 080-8430-9585

HP : <http://npo-noah.org/>

年会費 : 正会員 1000 円、

郵便振替口座 : 00110-4-387364 加入者名 : 特定非営利活動法人ノア

銀行から送金の場合は、〇一九店、当座、0387364、特定非営利活動法人ノア